

官民訪中ミッションを実施

製薬協は、厚生労働省、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の指導のもと、一般社団法人日本医療機器産業連合会と連携し、2018年12月に引き続き、再開後第4回の官民訪中ミッションを2019年7月2日～3日に中国・北京で実施しました。今回は厚生労働省医務技監の鈴木康裕氏を筆頭にPMDA理事長の藤原康弘氏、製薬協の中山譲治会長等のメンバーで官民訪中団を結成し、在中国日本国大使館の協力を得て、中国国家薬品监督管理局(NMPA、中国の薬事規制当局)、国家卫生健康委員会(中国の厚生行政当局)とハイレベル会談を行いました。なお、NMPAとの「中日薬品医療機器交流会」に関しては、前回の2018年12月に行っていることから、今回の官民訪中の期間での開催を見送ることとしました。



大使公邸での集合写真

中国国家薬品监督管理局(NMPA)とのハイレベル会談

官民訪中団はNMPA局長の焦紅氏をはじめとするNMPA幹部とのハイレベル会談を行い、医薬品および医療機器の監督管理分野における協調等、課題解決のための交流を続けていくことを確認しました。

局長の焦氏は、中国の薬事規制の改革と発展の状況を紹介し、監督管理に関する両国間の交流と協力の強化は、両国国民の健康と幸福、および産業の発展と交流の保護に資すると述べました。

厚生労働省医務技監の鈴木康裕氏からは、中国の薬事規制改革の進展を祝福し、同時に日中の医薬品監督管理部門の継続的な発展に向け、互恵的な協力関係を望むとの発言がありました。



NMPAとのハイレベル会談後の集合写真

国家卫生健康委員会とのハイレベル会談

官民訪中団は、副主任の王建軍氏をはじめとする国家卫生健康委員会の幹部とのハイレベル会談を行いました。

王氏は「健康中国2030」計画と人口高齢化に関する中国の政策を紹介し、さらに、社会経済の発展に伴い、高齢化は中国と日本、そして世界が直面する共通の問題となっており、双方は健康な高齢化(Healthy Aging)に向けた医薬品と医療機器における協力を強化し、人々の健康と幸福を改善するために協力していくとの発言がありました。

鈴木氏からは、日中の健康協力の実りある成果を高く評価し、高齢化への対処における日本の経験と教訓を紹介し、健康な高齢化および関連分野における両国間の協力を強化する意向を表明しました。



国家卫生健康委員会副主任の王建軍氏と厚生労働省医務技監の鈴木康裕氏

横井在中国日本国大使主催の大使公邸でのレセプション

今回の官民訪中団に加え、中国日本商会のライフサイエンスグループ、北京医薬品部会等の日本の中国進出企業のメンバーが、在中国日本国特命全権大使の横井裕氏主催の大使公邸でのレセプションへ招待されました。

今回の官民訪中に尽力した大使館関係者のみなさんも参加し、終始和やかなムードの中でレセプションは行われました。

横井氏から、「官民訪中団は日中関係同様、中国当局に対し非常に良い関係を構築している」との言葉があり、製薬協としても、今後も積極的、継続的に実施への努力を行っていく決意を新たにしました。



大使公邸レセプションの様子

(国際委員会 アジア部会 中国チーム)